

目次

三井銀行の史料について	浅井 良夫	2
タイプライターは身体と文章を繋げうるか？	アダル ラジャ	4
三井物産の豪州進出と「支店長会議議事録」	天野 雅敏	6
新発見、朝日新聞社資料	有山 輝雄	8
私の会計史研究の始まり	飯野 幸江	10
三井鉱山の社宅設計社内コンペ	池上 重康	12
『手形帳』から見える幕末三井の近代的金融活動	石井 寛治	14
幕末期における輸入染織史料	石田 千尋	16
北海道の炭鉱史研究の原点となった北炭社史稿本	市原 博	18
外国為替金融の勉強に取り掛かった頃	伊藤 正直	20
「内裏之図」とウサギの蔵書印	伊東 宗裕	22
三井大坂両替店の情報管理	岩田浩太郎	24
三井文庫の古地図資料	上杉 和央	26
物産各支店の特色を示す資料	上山 和雄	28
官員方繰替金証書	鵜飼 政志	30

「相对済まし令」に取り組んで	宇佐美英機	32
都市生活史料の宝庫	海原 亮	34
三井物産の中国市場における米材商売	老川 慶喜	36
―『三井物産支店長会議事録』―		
三井物産による灘酒の一手販売について	大島 朋剛	38
研究の原点となった「社外支払運賃備船料」	大島 久幸	40
「永除諸帳面控」に見る近世日本の記録管理	大谷 明史	42
史料をみる人、みせる人	大塚 陽子	44
天保四年分大坂金蔵勘定帳	大野 瑞男	46
三井家と牧野成貞を結ぶ史料	大橋 毅顕	48
三井文庫に通った日々	岡崎 哲二	50
機械部契約書から海外調査へ	岡部 桂史	52
「日記録」の複写に思うこと	岡本 直子	54
三井家の宅地一覧「家有帳」と家屋敷沽券状	小川 保	56
一点の史料から判明した大牟田の電力融通システム	荻野 喜弘	58
災害都市・江戸研究の一級資料「永要録」	小沢詠美子	60
『第一稿本三井家史料』と『三井の縁故社寺』	鬼沢 正	62
古地図資料の宝庫	小野田一幸	64
三井文庫で大蔵省を調べる	小幡 圭祐	66

大坂の身代限と『御用帳』	賀川 隆行	68
「三池鉱山年報」―財閥史研究の起点―	春日 豊	70
三井物産会社 Ledger	粕谷 誠	72
江戸書状	片倉比佐子	74
最後の「万世江戸町鑑」	加藤 貴	76
高橋是清の『談話速記録』	神山 恒雄	78
京都の町人・禁裏御用としての振る舞い	岸 泰子	80
故團男爵伝記編纂資料	北澤 満	82
災害情報を多面的に捉える商人の知恵	北原 糸子	84
三井物産「取締役会決議録」	橘川 武郎	86
三井合名会社「理事会記録」	吉川 容	88
三井物産業務日誌「日記」	木山 実	90
写真資料から改めて学んだ研究の基本姿勢	草野 真樹	92
台湾製糖株式会社関連史料との最初の出逢い	久保 文克	94
近代日中関係史と「語り」	久保田裕次	96
三条実美の貸上げ金命令と三井家の対応	小泉 雅弘	98
情報源としての三池鉱業所「往復書類」	木庭 俊彦	100
「陰徳性名録」をめぐって	小林 丈広	102
大蔵省文庫旧蔵の藩札回収関係史料	小林 延人	104

綱町三井倶楽部の象彦蒔絵の来由を探って	小林 祐子	106
私にとっての「諸用留」	五味 玲子	108
肥料流通史研究と三井物産『業務総誌』	坂口 誠	110
「三井物産支店長会議議事録」	坂本 雅子	112
津上製作所と三井物産	沢井 実	114
『染代覚帳』―染織史研究における新たな手がかり―	沢尾 絵	116
南洋アルミニウム鋳業関連資料	柴田 善雅	118
文化の宝庫「高祐日記」	嶋田 早苗	120
地図作者・澤田員矩の資料紹介	島本 多敬	122
伊勢参詣曼荼羅との関わり	清水 実	124
大牟田へ通った日々―私の一点『三井鋳山五十年史稿』―	下谷 政弘	126
越後屋の来店者数の記録	下向井紀彦	128
資料への詫び状	小路 行彦	130
情報の三井―京都に残された「御張紙値段」―	末岡 照啓	132
大坂宇和島町雑喉屋三郎兵衛について	須賀 博樹	134
三井文庫の魅力	杉森 哲也	136
宿題が不意に解けるとき	杉森 玲子	138
小判六十日の掛法	鈴木 敦子	140
井上馨宛益田孝書簡	鈴木 邦夫	142

三池鉦業所沿革史	鈴木 淳	144
三井合名会社「北京特派員執務概要」	須永 徳武	146
三都をまたにかけた対幕府交渉	高槻 泰郎	148
歴史研究ならではの、失敗の分析	高橋 弘幸	150
「つまみ食い」的利用者として	高村 直助	152
三井越後屋の買宿制度―呉服仕入れの競争力―	武居奈緒子	154
「敵役」が残した「反対商調」	武田 晴人	156
民間外交のおもてなし―英国皇太子の饗応―	田沢 裕賀	158
三井と社会学の接点	多田 哲久	160
「三池鉦山年報」	田中 直樹	162
使えなかった私の「一点」―書状控・留帳と書状刺し―	田中 康雄	164
「抱屋敷絵図」で町屋敷を基礎とする江戸町人地の特質がわかった	玉井 哲雄	166
安岡先生と「使用人給与制度私議」	千本 暁子	168
大坂の孝子・忠勤褒賞に関する史料	塚田 孝	170
「報知付録」―日本金融市場史研究のすすめ―	靄見 誠良	172
「手代申渡元手之控 壱番」	栩木 敬	174
消え行く文字をのこすために	永井 伴子	176
守山事件をめぐる	永江 眞夫	178
越前松平家呉服注文関連資料	長崎 巖	180

三井物産の国内取引研究にとって重要史料	中西	聡	182
城山荘日記	中村	青志	184
『機械部契約関係書類』と国際関係経営史	中村	尚史	186
三井物産から見た「反対商」高田商会の動向	奈倉	文二	188
戦前の三井物産の東南アジア支店の資料課題	南原	真	190
記録することへの執心―「改勤帳」―	西坂	靖	192
「御註文雛形留帳」にみる武家女性の装い	西中村	暁子	194
江戸図の宝石	芳賀	啓	196
研究の着想を拡げてくれた三井物産「支店長会議資料」	長谷川	信	198
『三池鉱業所沿革史』について―炭鉱史・財閥史の宝庫―	畠山	秀樹	200
『業務総誌』の迫力	原	朗	202
浮世絵研究と経済史資料	樋口	一貴	204
「宗寿松坂ニ而之万借帳」の復元を試みて	樋口	知子	206
戦前期の三井物産における電信利用	平井	岳哉	208
クモの巣図について	深井	甚三	210
『三井物産支店長会議事録』の思い出	藤井	信幸	212
動乱の京都を巡った人とカネ	藤井	典子	214
「政治と情報」研究のための史料	藤田	覚	216
私の一点・現行達令類集	藤田	幸敏	218

もしフーコーが三井文庫に出会っていたら	藤村	聡	220
天明六年寺社山伏百姓町人出金銀と三井	藤村潤一郎		222
関東大震災に耐えた安政の江戸地震記	保崎(秋葉)直子		224
『支店長公議事録』にみる白熱した議論	前田	和利	226
紀州藩公金為替と松坂家初代三井孝賢	曲田	浩和	228
京都町人としての三井家	牧	知宏	230
三池炭鉱関連建築の研究と「三池鉱業所沿革史」	松岡	高弘	232
船員の町口之津における三井物産の足跡	松林正一郎		234
「宗竺遺書」との関わり	松本	四郎	236
「城山荘日記」が伝える高棟の遺産	松元	宏	238
百貨店史研究と三越の職員名簿	満園	勇	240
三井物産とソコニーの揮発油販売交渉	三輪	宗弘	242
三井、将軍権力に昵近す―三井家編纂室の謄写史料から―	村	和明	244
三井文庫所蔵の戦国大名佐々木六角氏文書	村井	祐樹	246
牧田環氏談話	森川	英正	248
明治初期の東京における三井組と差配人	森田	貴子	250
戦時から大合同までの三井物産を知るために	谷ヶ城秀吉		252
町触から始まった研究生活	安国	良一	254
炭鉱資材に関する資料の閲覧を振り返って	山口明日香		256

三井物産が廃止した買弁の実態	山藤竜太郎	258
日清戦後の中国市場調査報告からみえるもの	山村 睦夫	260
―藤瀬政次郎『清国新開港場視察復命書』明治二十九年―		
豊田佐吉と豊田式織機の研究に際する『三井商店理事会議事録』	由井 常彦	262
『職員録』から見る仏領インドシナ三井物産の動向	湯山 英子	264
「江戸抱屋敷絵図」	吉田 伸之	266
私の一点 三井物産「社報」各年度	若林 幸男	268
初めて三井文庫をお訪ねして	若山 太良	270
明治前期における東京の不動産経営史料	鷺崎俊太郎	272
箱崎町絵図のこと	渡辺 浩一	274
史料公開年表		(17)
史料群解説		(10)
史料索引		(1)